

新名誉会員の紹介：前会長 腰塚武志氏

腰塚 武志 氏

(昭和19年3月生)

本学会前会長 腰塚武志氏に対し、名誉会員の資格を授与することになりましたので、ここにそのお祝いの意味を込め、その功績を記させていただきます。



腰塚武志氏は、埼玉県熊谷市で生まれ育ち、戦後経済成長期に設置された東京大学工学部都市工学科第一期生として大学生活を過ごされました。同学科卒業後、同大学院へ進学され在学中の1969年に同大学助手に採用され都市工学科の教育・研究活動の発展に尽力されました。1978年、筑波学園都市の中心教育機関として開学された筑波大学へ赴任し、31年間社会工学都市計画分野において教育・研究を牽引されました。その間、社会工学類長、社会工学系長、副学長として、法人化など難しい時期の国立大学運営に大きく貢献されました。筑波大学退職後は、南山大学理工学部教授、研究科長として6年間活躍されました。

45年半にわたり大学教員として、教育、研究両面で大いに活躍される中で、まず教育面では、筑波は学生と教員が同居する「巨大な寄宿所」という名言の下、筑波大学にて多くの卒業生を親身に指導されました。巣立った学生は、現在、筑波大学、慶應義塾大学、東北芸術工科大学、南山大学、小樽商科大学などにて教鞭を執っておられます。そしてこれらの指導学生（孫弟子）が、東京大学、東京工業大学、慶應義塾大学、名古屋大学、山梨大学などにて活躍しておられます。また、1997年にOR学会研究グループとして都市のOR研究会を立ち上げ、自由闊達な雰囲気の研究会在現在でも夏は筑波大学、冬は南山大学でと毎年2回定期開催されております。

研究面では、都市計画分野に積分幾何学や計算幾何学などを導入し都市地域の基礎理論を構築されました。例えば、今から40年前に東京大学助手時代に執筆しOR学会機関誌に連載された「積分幾何学について」の5遍シリーズは今でも陳腐化していない内容です。また、同氏が編集の「計算幾何学と地理情報システム」には、和書でありながら多くの優れた当時の最先端の研究成果が盛り込まれておりました。同氏の研究成果は、理論指向の強いMathematical Programmingなどの国際誌から、実務指向の強い都市計画学会などの国内誌まで広い間口で発信されております。加えて、日本都市計画学会、形の科学会も含め榮譽ある賞を受けておられます。特に、日本都市計画学会の

最も権威のある石川賞を受賞されていることは特筆すべきことです。既存の学問領域や汎用的分析手法にとられることなく、社会の課題に応じて適切な理論的手法を駆使し現場へ応用し実践するという研究姿勢はまさにOR研究に最も忠実だとも言えるでしょう。

OR学会の役員歴では、研究普及委員、編集委員を経て、1988年庶務理事、1991年国際担当理事、2003年より2年間副会長、さらに2012年から2年間会長を務められました。会長時代には、円滑な学会運営と学会の活性化に取り組み、会員増強と若手研究者育成のために学生会員の会費無料化など英断を下されました。

中学、高校時代に、当時全国トップレベルだった埼玉県で打ち込んだ卓球、東大時代に遭遇した1960年代の激しい学生運動など多様な経験に裏打ちされた懐の深さとお人柄は、若い世代を魅了し鼓舞してきました。少子化の時代を迎えたわが国では、人材育成がより重要な課題であり、今後も各方面への親身なご指導が期待されます。

一略歴一

1966年3月	東京大学工学部都市工学科卒業
1968年3月	東京大学大学院工学系研究科修士課程修了
1969年9月	東京大学大学院工学系研究科博士課程中途退学
1969年10月	東京大学工学部助手
1978年3月	筑波大学社会工学系助教授
1990年11月	筑波大学社会工学系教授
2000年4月	筑波大学副学長
2002年4月	筑波大学社会工学系教授
2004年4月	国立大学法人筑波大学理事・副学長
2009年4月	南山大学情報理工学部教授
2014年4月	南山大学理工学部教授（学部改名）

一受賞一

1979年5月	日本都市計画学会論文奨励賞受賞
1984年4月	日本OR学会事例研究奨励賞受賞
2001年7月	形の科学会功労賞受賞
2003年3月	日本OR学会業績賞受賞
2009年5月	日本都市計画学会石川賞受賞

一OR学会関係一

1988～1990年	庶務理事
1991～1993年	国際担当理事
2003～2005年	副会長
2012～2014年	会長